

プレス・リリース

2021年8月5日

トレヴァー・ピノック

紀尾井ホール室内管弦楽団第3代首席指揮者に就任 — 2022年度から

公益財団法人 日本製鉄文化財団（代表理事：右田彰雄）は、紀尾井ホール室内管弦楽団第2代首席指揮者ライナー・ホーネック氏の任期満了を受け、2022年度よりトレヴァー・ピノック氏を第3代首席指揮者として迎えることを決定いたしました。

トレヴァー・ピノック氏が紀尾井ホール室内管弦楽団（KCO）にデビューしたのは、旧紀尾井シンフォニエッタ東京時代の2004年10月（第46回定期演奏会）。以後、昨年2020年2月の特別演奏会を含む計5回の客演を経て、2022年度シーズンより3年間、定期演奏会年2回出演の契約でKCO第3代首席指揮者に就任します。

1970年代からのイングリッシュ・コンサートでの華々しい活躍をはじめ、現在に至るピリオド楽器・ピリオド音楽のムーブメントを作り、かつ今日まで牽引し続けてきた深い経験と知識をKCOにもたやすこと。そして同時に、作品の躍動感や流れを活かした氏ならではの爽やかな音楽表現、さらに得意のバロックや古典派にとどまらず、また器楽から声楽まで広範なレパートリーを持つピノック氏の豊かな創造性をKCOとともに日本の音楽ファンにお届けすること。——— ホーネック氏（2022年度より名誉指揮者就任予定）と築いた成果の上に、ピノック氏とのパートナーシップをさらに積み上げてゆくことでKCOの一層の充実を皆さまにお届けできればと願っております。



©Gerard Collett

【ピノック氏 就任メッセージ】

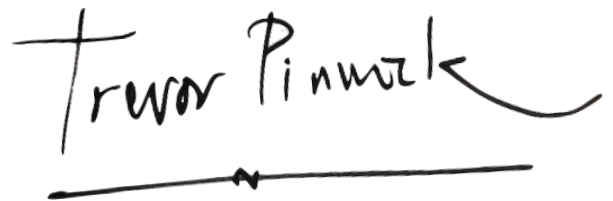
I feel honoured and delighted to be appointed principal conductor of the Kioi Hall Chamber Orchestra.

Working with the musicians of this orchestra has always been a highlight of my visits to Japan. Over the 17 years that we have worked together our understanding and trust of each other has grown both in our music making and as human beings from very different cultures. One of the most satisfying and exciting things I have experienced with the orchestra is how much common ground we share through our music and the how our work together has shown us that we have shared feelings and emotions.

The human aspect of making music together is of profound importance and it is very rewarding to explore our music and our joint humanity together in which our Japanese and English heritage can find a unity of expression.

I greatly look forward to a very special journey with my Japanese colleagues over the next three years and I know that we will have something very special to offer our audience.

Trevor Pinnock

A handwritten signature in black ink that reads "Trevor Pinnock". The signature is written in a cursive, flowing style. Below the signature is a horizontal line with a small decorative flourish in the center.

この度、紀尾井ホール室内管弦楽団の首席指揮者に就任することをとても嬉しく、そして光栄に思っております。

私にとって、このオーケストラの音楽家たちと一緒するのは、日本を訪れる中で常に最も重要なことでした。

私たちはこれまで17年間にもわたって共演を重ねることで、音楽作りにおいても、また大きく異なる文化を持つ人間同士としても、互いの理解と信頼を成長させてきました。中でも、KCOとは音楽上の共通点がとても多く、共同作業を通じて互いの感情や感動を分かち合う体験を積んでこられたのは、最もエキサイティングで満足していることのひとつです。

共に音楽を作っていく過程において人間的な側面は深く重要です。日本人と英国人という異なる文化的伝統を持つ私たちが、にもかかわらず一致した表現方法を見出せるような音楽や我々の共有の人間性を探求することはきわめて意義深いことです。

2022年から始まる日本の仲間との特別な旅が今から楽しみでなりません。そして私たちは、聴衆の皆さまにとっても素晴らしいものをお届けできると確信しています。

トレヴァー・ピノック

トレヴァー・ピノック（指揮） Trevor Pinnock, *conductor*

1946 年生まれ。トレヴァー・ピノックはチェンバロ奏者としての活動とともに、1972 年にピリオド楽器オーケストラ「イングリッシュ・コンサート」を創設し 30 年間率いてきた。2003 年以降は活動の幅を広げ、指揮、独奏、室内楽や数々の教育プロジェクトなどで活躍している。特に指揮者としては、2011～2015 年シーズンに首席客演指揮者を務めたモーツァルト管弦楽団をはじめ、ドイツ・カンマーフィル、ロス・フィル、ゲヴァントハウス管、コンセルトヘボウ管、フランス国立管、サンタ・チェチーリア管ほかに定期的に出演。2006 年には自身の 60 歳の記念にヨーロッパ・ブランデンブルク・アンサンブルを創設。彼らと録音した《ブランデンブルク協奏曲》全曲のディスクは 08 年のグラモフォン・アワードに輝いた。

2021 年は 7 月にリトアニアの N žemė 国際音楽祭でヘンデルの歌劇《アシスとガラテア》を指揮した。

1992 年大英帝国勲章 CBE、1998 年フランス芸術文化勲章オフィシエ受章。

トレヴァー・ピノック 第 3 代首席指揮者 初年度プログラム

第 130 回定期演奏会【首席指揮者就任記念コンサート】

2022 年 4 月 22 & 23 日

オール・モーツァルト・シンフォニーズ

“モーツァルト、モーツァルト、モーツァルト”（仮題）

交響曲第 31 番ニ長調 K.297 《パリ》

交響曲第 35 番ニ長調 K.385 《ハフナー》

交響曲第 39 番変ホ長調 K.543

第 132 回定期演奏会

2022 年 9 月 23 & 24 日

アレクサンドラ・ドヴガン（ピアノ）日本デビュー

ワーグナー：ジークフリート牧歌 WWV 103

ショパン：ピアノ協奏曲第 2 番へ短調 op.21

シューベルト：交響曲第 5 番変ロ長調 D485

【トレヴァー・ピノック出演履歴】

2004年10月22・23日 第46回定期演奏会

モーツァルト：歌劇《フィガロの結婚》K.492～序曲

モーツァルト：交響曲第29番イ長調 K.201

モーツァルト：交響曲第41番ハ長調 K.551

2012年9月22・23日 第86回定期演奏会

パトリック・メシーナ（クラリネット）

モーツァルト：交響曲第36番ハ長調 K.425《リンツ》

モーツァルト：クラリネット協奏曲イ長調 K.622

モーツァルト：交響曲第39番変ホ長調 K.543

2015年7月10・11日 紀尾井ホール開館・紀尾井シンフォニエッタ東京 創立20周年記念特別演奏会

澤江衣里、藤崎美苗（ソプラノ）、青木洋也（アルト）、中嶋克彦（テノール）、加来徹（バス）

紀尾井バッハコア

バッハ：ミサ曲口短調 BWV232

2016年4月22・23日 第104回定期演奏会

イモーゼン・クーパー（ピアノ）

フォーレ：《マスクとベルガマスク》組曲 op.112

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第4番ト長調 op.58

ハイドン：交響曲第103番変ホ長調《太鼓連打》

2020年2月8・9日 紀尾井ホール開館・紀尾井ホール室内管弦楽団 創立25周年記念特別演奏会

望月万里亜（ソプラノ）、青木洋也（アルト）、中嶋克彦（テノール）、山本悠尋（バス）

紀尾井ホール室内合唱団（特別編成）

モーツァルト：交響曲第40番ト短調 K.550（第2稿）

モーツァルト：アヴェ・ヴェルム・コルプス ニ長調 K.618

モーツァルト：レクイエム ニ短調 K.626

【本件に関するお問い合わせ先】

公益財団法人 日本製鉄文化財団

広報：遠藤 03-5276-4670(直通) endo@kioi-hall.or.jp

担当：松本 070-6632-7375(直通) matsumoto@kioi-hall.or.jp